

令和3年度 魅力ある県立学校づくり大賞 特別賞の取り組み

“私は、できる”「オリ・パラ」推進隊の挑戦！ 千葉県立東金特別支援学校

【学校の概要】

東金市にある東金特別支援学校は、県東部に広がる九十九里平野のほぼ中央に位置しています。本校は、昭和48年に知的障害の子供を教育する県立養護学校（現特別支援学校）として県内で初めて開校した学校です。現在、全校児童生徒150人であり、学区は東金市、山武市、横芝光町（横芝地区）、芝山町の2市2町です。

教育活動の特色として、防災教育、オリンピック・パラリンピック（以下、オリ・パラ）教育に取り組んでいます。平成30年度に内閣府より「防災功労賞内閣総理大臣賞」、また、平成31年度には東京2020組織委員会より、「みんなのスポーツフェスティバル優秀賞」を受賞しました。



【これまでの経緯】

本校は平成30年度から県教育委員会より「オリ・パラを活用した教育推進事業」の指定を受け、今年で指定4年目となります。オリ・パラ教育の推進にあたり、児童生徒主体の「オリ・パラ」推進隊（以下、推進隊）を平成30年度に発足しました。これは、オリ・パラやパラスポーツを校内、地域に広めることを目的として結成した児童生徒主体の組織です。現在は「パラスポ推進隊」として、小学部から高等部の児童生徒計16人が活動しています。

【「I'mPOSSIBLE」をとおして】

推進隊は地域での活動として、地域の方を対象とした障害者スポーツの体験会（「オリ・パラ」サマーセッション in 東金）を開催したり、地域の小・中学校に講師として訪問し、ボッチャの出前授業（「オリ・パラ」キャラバン）を行ったりしています。

児童生徒たちは、「I'mPOSSIBLE」教材と出会い、身の回りの「できない」を「できる」に変えていく工夫の大切さを学びました。さらには、「I'mPOSSIBLE」で学習したことを「オリ・パラ」キャラバンに活かし、小・中学生に伝わる説明の仕方を、自分の言葉で伝えることができるようにするにはどうしたら良いかを考える等努力しました。

その結果小・中学生から、「オリンピックしか見なかったけどパラリンピックに興味をもった」といった、パラリンピックの見方への変化や、「どんな人にでも平等に接したい」等、障害者に対する理解の向上が感じられるようになりました。



【東京2020パラリンピック】

これまでの推進隊の実践を、国際パラリンピック委員会主催のI'mPOSSIBLEアワードに応募したところ、東京2020パラリンピック「I'mPOSSIBLEアワード開催国特別賞」を受賞することができました。

この受賞を受け、推進隊はもとより、全校児童生徒、保護者の皆さんで喜びを分かち合いました。そして、関係機関の方々からも、国際大会で東金特別支援学校が、表彰されたことは大変喜ばしいとの声をいただきました。その後も多方面より、推進隊への活動

依頼等があり、その反響に驚いています。

【東金2020レガシー】

東京2020大会後は「オリ・パラ」推進隊の名称を“パラスポ推進隊”に変更。校内、地域の皆さんに今まで以上にパラスポーツを知っていただくことを目的に、さらなる活動を始めています。そして、パラスポーツをとおして障害者理解や共生社会の形成につながるよう、これからも取り組んでいきます。引き続き、本校は地域に向けた情報を発信し、地域とともに発展していく特別支援学校を目指します。本校のこれからのにも、ぜひ、ご注目ください。